

「目標に向かって」……久住中学校男子ソフトテニス部



ぼくたち久住中学校男子ソフトテニス部は2年生7人、1年生5人の合計12人で、火曜日の朝と放課後、土・日曜日の午前中に、学校のテニスコートで活動しています。

主にサーブやレシーブの基礎練習、試合形式の練習をします。大会になると試合時間が30分を超えることも多いので、ゲームセットの瞬間までボールを追いつけられるように持久走などもしています。

ソフトテニスのボールは軽いので、風の影響を受けやすく、軌道が変化しやすいのが特徴です。部員全員が中学校に入学してからソフトテニスを始めたので、ボールをコントロールするのに苦労しています。狙ったコースにボールを打てるように、数多く打ち込みの練習をしてサーブやレシーブの精度を高めています。

ソフトテニスの大会で勝敗を分けるのは、パートナーとの息の合ったプレー。練習中は常に声を掛け合うことを意識しています。声を掛け合うことで、2人の連携がうまくいくだけでなく、気分を盛り上げて集中力を高めることができます。

今の目標は、9月に行われる印旛郡市新人戦の団体戦で入賞することです。夏休みの期間は、この大会に向けて一生懸命に練習を積みました。大会にいつも応援に来てくれる家族のためにも活躍したいです。



バテない体力をつくるために



狙いを定めて



石橋 宏樹 部長 (2年生)

部長になって、まだ日が浅いですが、部員を引っ張っていけるように頑張っています。

「伝統工芸を身近に感じながら」

表装くずみ

わたしたち「表装くずみ」は、毎月第1・3金曜日に住居公民館で、男女6人のメンバーで活動しています。

表装とは、絵画や書などの保存と鑑賞のために、布や紙で作品に縁取りや裏打ちをして補強し、掛け軸や額などに仕立てることです。

表装というと、格調の高い書画を掛け軸や額にして床の間に飾る、職人が手掛ける高級な工芸品といったイメージが一般的だと思います。

しかし実際には書画だけでなく、趣味の絵手紙や友禅染などを表装し、洋室の壁に飾って楽しむこともあります。わたしたちは表装を、日本の伝統美を取り入れながら現在の生活様式に合わせて仕立てることができると感じています。



のりは入念に均一に

教えてくださるの、30年近いキャリアを持つ飯田俊六郎先生。分かりやすい実演を交えて優しく丁寧に指導してくださいます。とりわけ、作品



心を込めた作品とともに

の出来を左右する裏打ちの工程は、入念にのり付け作業をしないと作品にしわが寄ってしまうこともあり、先生の指導にも一層熱が入ります。のりを均一に塗り紙を張ることは一朝一夕にはできないので、その分経験を積み重ね、上手にできたときのうれしさはひとしおです。思い出の品などを表装して装いを新たにすると高級感が加わり、身近なものが生まれ変わる楽しさもあります。興味を持った人がいましたら、一緒に伝統工芸にチャレンジしてみませんか。

大堀 廉太郎くん(2歳・左)久住中央
譲聖くん(8カ月・右)

活発でいつも元気なお兄ちゃんと、のんびり、ゆったりした弟です。



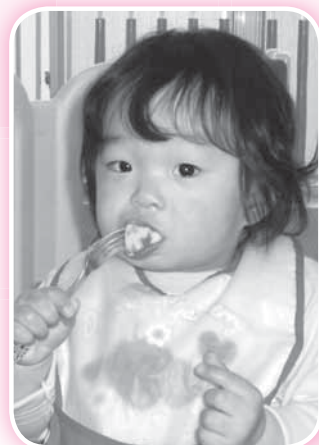
賢持 奈弥ちゃん(3歳)公津の杜

ピースが上手になったでしょ!



岡山 祐翔くん(1歳)はなのき台

ごはん大好き◎ママ大好き♥
モリモリ食べて大きく育ってね!!



鈴木 沙耶ちゃん(1歳)吾妻

食べるの大好き♪踊るの大好き♪
沙耶の笑顔で皆もニコニコ◎